

MEDICINOVA
株主通信 Vol.9
決算のご報告
(2010年1月1日～2010年12月31日)

VOICE

Patients voice, Our choice.

笑顔のために…

みんなの笑顔をつくることができると、私共は信じています。



MEDICINOVA
メディシノバ

やまい
**病に苦しむ世界中の患者さんのために、新薬を創り、届けること。
それがメディシノバの使命です。**

日本のすぐれた創薬技術をいかして、
安全で有効な新薬を世界へ届ける…
患者さんの笑顔をつくること、私達の仕事です

会社理念

十分な治療法がまだ確立していない疾病を患う
世界中の患者さんに、よりよい治療を提供することにより
社会に貢献すること

基本経営方針

理念を具現すべく、こうした疾病の問題を改善する
医薬品の導入、開発、販売を手がける
グローバルな製薬会社を目指すこと

中国合併会社設立の基本合意を機に さらにパイプラインの臨床開発、導出活動に邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて2011年がスタートし、3分の1が経過いたしました。3月初めに中国の大手製薬企業である浙江医薬 (Zhejiang Medicine Co., Ltd.) との間で合併会社を設立することについて基本合意に至りました。当社は開発製品MN-221について、米国内での開発・販売は自社で独自で行う計画ですが、米国外での開発・販売網の整備などについては、かねてより提携先を探してまいりました。今回の合併会社設立で、当社は実質的に現金を使用することなく中国国内で開発が進められるようになります。

3月末には、MN-221 (喘息の急性発作およびCOPD治療薬) を中心としたパイプラインの開発資金確保のため、米国において米国発行登録制度に基づき公募増資 (新株及びワラント発行) を実施いたしました。

また、4月初めに住友商事株式会社の子会社であるOxford Finance Corporationから借りていた融資に関し一括返済を行いました。今回の融資返済により、バランスシートのスリム化及び金利費用の削減が実現できました。

さらに、2011年1月に行いました人員削減により、一般管理費のコスト削減も実施しました。

開発品といたしましては、MN-166 (AV411) として当社が開発に注力している化合物イブジラストの薬物依存症適応に対する特許承認の通知を米国特許商標局から受けました。本特許は、イブジラストを単体または他の医薬品との併用で、オピオイド依存または離脱症状に対する治療目的で投与することを対象としています。

また、MN-221の喘息の急性発作患者を対象とした大規模フェーズ2臨床試験においては、救急病院での発作状態にある方を対象とする難易度の高い臨床試験でもあり、当初の予定より時間がかかっていますが、2011年からは、プロトコルの見直し等が軌道に乗り、急速にキャッチアップをしてきております。結論としては、本臨床試験の終了時期を2011年下期と予定を変更させていただきました。

今後も、株主の皆様のご期待に応えられるよう社員一同、臨床開発、導出活動に邁進する所存でございます。株主の皆様には、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年4月

代表取締役社長兼CEO
(最高経営責任者)
岩城 裕一



中国における合併会社設立に関して基本合意に至りました。



中国で行われた調印式の模様（写真中央：蔣晓岳 浙江医药股份有限公司社長、右：岩城裕一 当社社長）



浙江医药ビタミン工場

メディシノバは2011年3月3日、中華人民共和国の浙江医药股份有限公司 (Zhejiang Medicine Co., Ltd.) との間で合併会社を設立することについて基本合意に至りました。

当社は開発製品候補MN-221について、米国内での開発・販売は自社で独自に行う計画ですが、米国外での開発・販売網の整備等については、かねてより提携先を探していました。今回の合併会社設立で、当社の現金を使用することなく中国国内での開発が進められるようになります。これにより、何百万人といわれる喘息の急性発作患者を抱える巨大な市場におけるMN-221の上市、販売を目指します。

■合併会社の概要

(1) 会社の形態

有限責任会社

(2) 事業の内容

当社の保有する製品候補MN-221の中国国内における開発・製造及び販売並びにこれらに付随する事業（中国国家食品薬品监督管理局に対する承認申請手続き等を含む）

(3) 出資予定額

14,290,000元（182,869,130円）

※注：当社の実質的な現金負担はありません。MN-221に関するライセンスの供与及び中国国内の営業権の供与など技術・権利による出資となります。

(4) 所在地

中華人民共和国 杭州（暫定）

(5) 代表者

未定

浙江医药股份有限公司 (Zhejiang Medicine Co., Ltd.) の概要

中国有数の製薬企業で、世界的にもビタミンなどのサプリメントを供給する企業として知られています。2010年の売上高は4,558百万円（58,333百万円）にのびります。同社は2008年11月、中国の科学技術省から新薬開発に関わる6大ビジネスインキュベーターの一社に指定されました。現在、中国国内市場に向けて上市する新薬の研究開発に注力しており、中国で興りつつある製薬業界において、同社はそのリーダーとなる準備を整えているといえます。

本店所在地	中華人民共和国 浙江省
代表者	会長 李春波 (Chunbo Li) 社長 蔣晓岳 (Jiang Xiao Yue)
事業の内容	製剤原料、最終製剤、食品などを取り扱う製薬、健康関連事業。主力商品は、ビタミンカプセル、バンコマイシン塩酸塩（注射薬）など。
取引市場	上海株式市場（証券コード600216）
株主資本	3,857百万円（49,361百万円）*2010年12月末現在
設立	1997年
時価総額	16,261百万円（208,092百万円）*2011年4月15日現在

最近4年間の経営成績及び財務状態

（単位：百万円、1株当たりデータを除く）

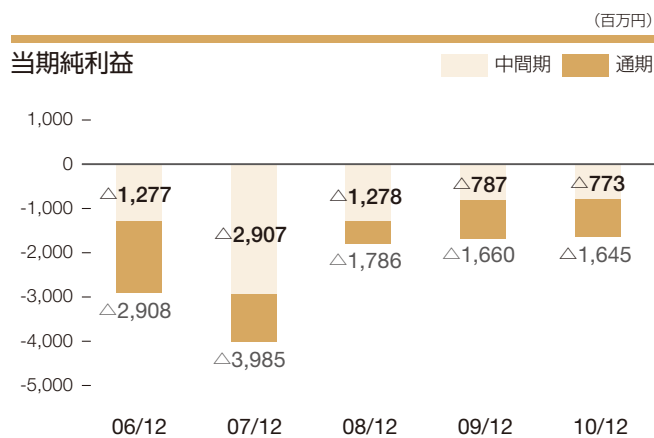
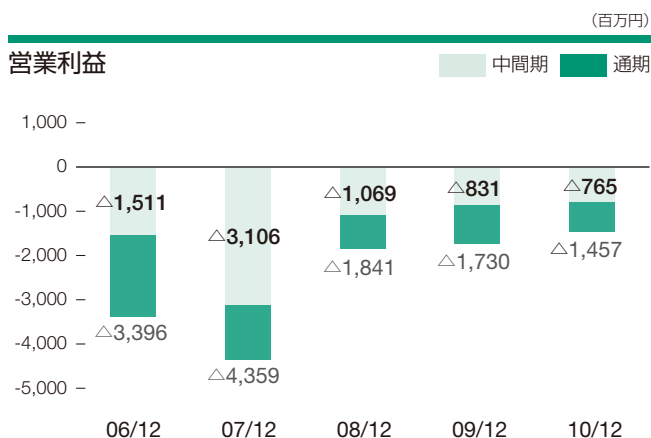
	2007年12月期	2008年12月期	2009年12月期	2010年12月期
株主資本	1,054 (13,484百万円)	1,812 (23,192百万円)	2,861 (36,616百万円)	3,857 (49,361百万円)
総資産	2,827 (36,178百万円)	3,264 (41,771百万円)	3,880 (49,647百万円)	4,637 (59,342百万円)
売上高	2,209 (28,269百万円)	3,761 (48,130百万円)	4,184 (53,539百万円)	4,558 (58,333百万円)
営業利益	116 (1,481百万円)	1,132 (14,484百万円)	1,451 (18,568百万円)	1,356 (17,354百万円)
当期利益	57 (729百万円)	977 (12,507百万円)	1,214 (15,530百万円)	1,145 (14,649百万円)
1株当たり当期純利益	0.13 (1.66円)	2.16 (27.64円)	2.70 (34.55円)	2.54 (32.50円)
1株当たり配当	0.03 (0.38円)	0.70 (8.96円)	0.80 (10.24円)	未定 未定

注)円換算の数値には、2011年4月15日のレート1元=12.797円を使用しています。

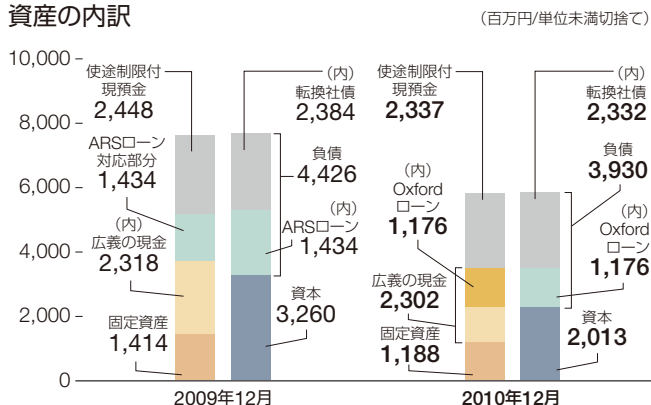
営業損失は前期比、予実対比ともに減少、 純損失はローン支払利息等により予実対比で増加。

当期の営業損失は前期比で16%(約2.7億円)の減少、純損失は同じく1%(約0.1億円)の減少となりました。また、2010年3月25日発表の通期業績予想に対しては、営業損失が0.2%(約0.03億円)の減少、純損失が14.0%(約2.0億円)の増加となりました。

これは、当初予想作成時点で予定していなかったOxford Financeからのローンを実行、その借入に対する金利支払いを中心に約1.5億円の支払利息が発生したことと、UBSのARS及びARSプットの償還に伴い実現化した相殺損益(損失)約0.7億円が発生したことが主な要因です。

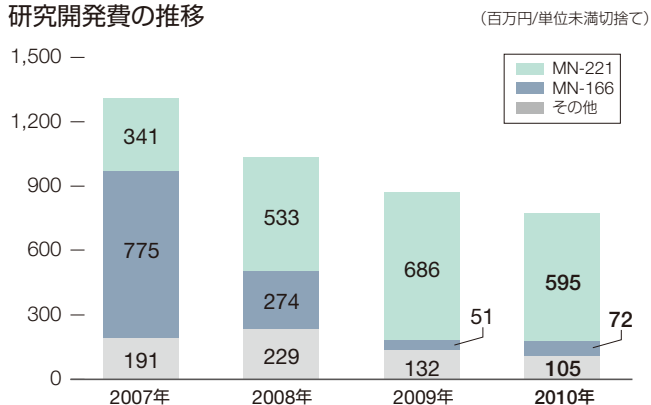


資産の内訳



	2009年12月	2010年12月	増減
広義の現金(百万円)	2,318	2,302	△16
資本合計(百万円)	3,261	2,013	△1,248
1株当たり純資産(円)	269	162	△107
1株当たり広義の現金(円)	192	184	△8
	2009年12月30日時点	2010年12月30日時点	
JASDAQ市場時価総額(百万円)	8,533	5,105	△3,428

研究開発費の推移




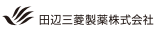



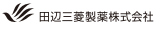



2010年研究開発費内訳

(百万円/単位未満切捨て)

開発品	費用	開発品	費用
MN-221 気管支喘息急性発作	595	MN-029 固形癌	8
MN-166 多発性硬化症	72	MN-246 尿失禁	△1
MN-001 気管支喘息	3	MN-447 / MN-462 抗血栓	1
MN-305 全般性不安障害	0	その他	105
MN-001 間質性膀胱炎	3		
MN-221 切迫早産	0		
		開発費合計	791

注)メディシノバは米国企業で実際の決算は米ドルベースで行われておりますが、便宜上、三菱東京UFJ銀行の2010年12月30日現在の対顧客電信直物相場から算出した仲値1ドル=81.49円にて円換算しております。

製品候補	パートナー	前臨床	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
コア開発品					
MN-221 気管支喘息急性発作 慢性閉塞性肺疾患(COPD)		慢性閉塞性肺疾患(COPD)		気管支喘息急性発作	
MN-166(イブジラスト) 疼痛、多発性硬化症 依存症		依存症		疼痛、多発性硬化症	
ノンコア開発品					
MN-001 気管支喘息					
MN-305 全般性不安障害					
MN-001 間質性膀胱炎					
MN-221 切迫早産					
MN-029 固形癌					
MN-246 尿失禁					
MN-447 & MN-462 抗血栓					

Topics 1

トピックス 1

イブジラストの薬物依存症適応を対象とする 特許(米国)承認を得ました。

メディシノバは2011年3月9日、当社がMN-166またはAV411として開発に注力している化合物イブジラストの薬物依存症適応に対する特許承認の通知を米国特許商標局から受けました。本特許はイブジラストを単体または他の医薬品との併用で、オピオイド依存または離脱症状に対する治療目的で投与することを範囲としています。

イブジラストは、神経因性疼痛、薬物依存、進行型多発性硬化症をはじめとする神経症状に対する治療薬候補です。マクロファージ遊走阻止因子(MIF)及びホスホジエステラーゼ-4(PDE-4)、ホスホジエステラーゼ-10(PDE-10)

に対する非オピオイド阻害剤であり、グリア細胞の活性化を抑制する作用も認められています。こうした細胞作用は、オピオイドまたはメタンフェタミンのような薬物依存症に関与するある種の神経化学的な変化及び行動上の変化と関連していることが実証されています。

今回承認を受けた特許請求の範囲には、モルヒネやオキシコドン* (Vicodin®) のようなオピオイドの服用を中止または減らした患者に見られる離脱症候の治療や、それと関連するグリア細胞の活性化の抑制などが含まれています。さらに、オピオイドの一種で、オピオイド依存の治療薬とし

すでに認可されているブプレノルフィン (Suboxone®) との併用も含まれます。

今回の特許承認は、リンダ・ワトキンス博士をはじめとするボルダーのコロラド大学の研究スタッフ及び当社の

チーフ・サイエンティフィック・オフィサー、カーク・ジョンソン博士の研究に基づいて与えられました。

※オキシコドン: オピオイドの一種で、鎮痛効果はモルヒネの1.5~2倍とされています。

イブジラストについて

イブジラストは、日本では喘息及び脳梗塞発作後の症状の治療薬としてすでに22年以上使用されています。さらに当社が行った多発性硬化症及び神経因性疼痛を適応とする臨床試験では、より高い用量が投与され、良好な結果が出ています。

薬物依存研究の専門家による、コロンビア大学とニューヨーク州精神医学研究所との共同研究及びUCLAの臨床試験などの治験計画が、米国国立薬物研究所 (NIDA) からの支

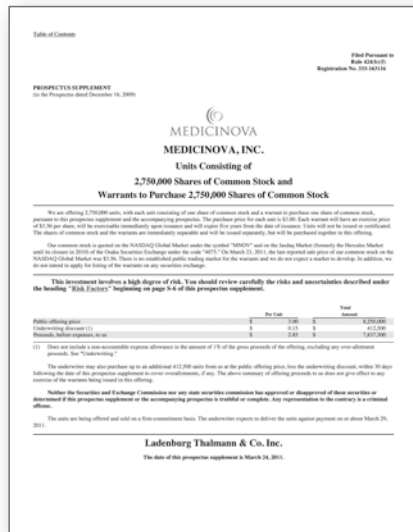
援につながり、それぞれオピオイド離脱及びメタンフェタミン依存を適応とする前臨床及び臨床試験が行われています。

これらの薬物の濫用は、今日も公衆衛生上の重要問題であるものの、臨床的にいまだに有効な医薬品による治療法がありません。オピオイドまたはメタンフェタミン依存を治療する非オピオイド医薬品は現在全くなく、イブジラストは、臨床研究が進められている数少ない新しい治療法の一つです。

イブジラスト(MN-166/AV411)の特許マップ



米国で公募による新株式発行(公募増資)を実施しました。



メディシノバは2011年3月10日(米国太平洋標準時間)の取締役会で、2009年11月13日(同)に米国証券取引委員会より承認を受けた有価証券の募集についての発行登録に基づき、米国で公募増資を行うことを決定し、3月23日付で米国証券取引委員会に提出された仮発行登録追補書類に基づいて実施しました。今回の公募による新株発行に伴い、募集に応じる投資家に対し、対応する新株式の株数と同数のワラント(新株予約権)を付与しました。

なお、3月23日の価格決定委員会^{*1}で、新株式及びワラントの発行について下記のとおり決定しました。

1. 公募による新株式発行(一般募集)

- (1) 有価証券の種類: 普通株式
- (2) 発行方法: 募集
- (3) 募集地域: 米国
- (4) 引受証券会社: Ladenburg Thalmann & Co. Inc.
- (5) 発行株式数: 2,800,666株
- (6) 発行価格: 1株につき3.00米ドル(243円相当) ^{*2}
- (7) 発行価格の総額: 8,401,998米ドル(6億8,081万円相当)
- (8) 払込金額: 1株につき 2.82米ドル(229円相当)
- (9) 払込金額の総額: 7,899,398米ドル(6億4,009万円相当)
- (10) 増加する資本金の額: 2,801米ドル(23万円相当)
- 増加する払込剰余金の額: 7,896,597米ドル(6億3,986万円相当)
- (11) 払込期日(受渡期日): 2011年3月29日(火)(米国東部標準時間)
- (12) 調達した資金の使途: MN-221を中心としたパイプラインの開発及び一般事業目的に使用予定

2. ワラント(新株予約権)発行

- (1) 有価証券の種類: ワラント(新株予約権)
- (2) 行使に際して払い込みをなすべき金額: 1株につき3.56米ドル(288円相当)
- (3) 発行数: 2,800,666個
- (4) 目的たる株式の種類及び数: 当社普通株式2,800,666株(ワラント1個当たりの目的たる株式の数1株)
- (5) 受渡期日: 2011年3月29日(火)(米国東部標準時間)
- (6) 行使期間: 5年(2011年3月29日から2016年3月28日まで)

^{*1} 価格決定委員会は取締役会が任命した4名の当社取締役で構成されており、本資金調達における新株の発行価格等の諸条件を決定する権限を有しています。

^{*2} 一般募集における価格(発行価格)およびワラントの行使に際して払い込みをなすべき金額算定の基礎となる情報算定基準日およびその価格は、2011年3月23日(水)(米国東部標準時間)のNASDAQグローバル市場における当社普通株式の終値である3.56米ドルを基準に決定しました。




注) 米ドルの日本円への換算は、1ドル=81.03円の換算率(三菱東京UFJ銀行が公表した2011年3月23日現在の対顧客電信直物相場の仲値)に基づく値を便宜上適用しています。

主なハイライト

- カーク・ジョンソン氏のチーフ・サイエンティフィック・オフィサー(CSO)就任を発表
- MN-221のCOPD(慢性閉塞性肺疾患)を適応とするフェーズ1b臨床試験(CL-010)結果を発表
- 神経学専門誌『Neurology』へのMN-166に関する論文掲載
- Oxford Finance Corporationとの融資契約締結を発表
- マイケル・コフィー氏のチーフ・ビジネス・オフィサー(CBO)就任を発表
- UBSから発行されたオークション証券(ARS)の売却完了を発表
- 科学誌『PNAS』にMN-166の作用機序に関する論文掲載
- MN-166, AV411(イブジラスト)のメタンフェタミン依存を適応とするフェーズ1b臨床試験(UCLAによる実施)開始
- NBC TVプログラム“Biotech ‘N You”放送
- 米国胸部専門医学会年次総会へのポスタープレゼンテーションによる参加
- MN-166, AV411(イブジラスト)のオピオイド離脱を適応とするフェーズ1b/2a臨床試験結果を発表
- 浙江医薬(Zhejiang Medicine Co., Ltd.)との中国合併会社設立の基本合意を発表
- MN-166, AV411(イブジラスト)の薬物依存症適応を対象とする特許(米国)承認を発表
- 米国における米国発行登録制度に基づいた公募増資を発表

2010年
1月
2月
3月
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
2011年
1月
2月
3月
4月

IR説明会ハイライト

- 日本証券新聞社主催 個人投資家向けセミナー(名古屋)
- 株なび主催個人投資家向けセミナー(東京)
- メディシノバ主催「個人投資家説明会」(東京)
- 平成21年12月期決算説明会(東京)
- 日本証券新聞社主催 個人投資家向けセミナー(大阪)
- 日本証券新聞社主催 個人投資家向けセミナー(福岡)
- 平成22年12月期第2四半期説明会(東京)
- 東京IPO主催個人投資家向けIRセミナー(新宿)
- 株なび主催個人投資家向けセミナー(東京)
- 日本証券新聞社主催 個人投資家向けセミナー(札幌)
 
- 東京IPO主催個人投資家向けIRセミナー(新宿)
- 日本証券新聞社主催 個人投資家向けセミナー(大阪)
 
- 日本証券新聞社主催 個人投資家向けセミナー(名古屋)
 
- 平成22年12月期決算説明会(東京)
- (株)全国賃貸住宅新聞主催 賃貸住宅フェア内 株式投資フェア出展・セミナー(京都)
- (株)全国賃貸住宅新聞主催 賃貸住宅フェア内 株式投資フェア出展・セミナー(香川)

Management Team

経営陣

執行役



岩城 裕一
代表取締役社長兼CEO
(最高経営責任者)

南カリフォルニア大学医学部泌尿器科学、外科学、病理学教授。1992年より移植免疫学・免疫遺伝学研究室ディレクター。取締役会長として創業設立より事業開発、資金調達等、事業全体の統括を支援。2005年9月よりCEO兼任。日本大学医学部、九州大学、および東京女子医科大学らの客員教授を兼任。南カリフォルニア大学医学部にて教鞭を執る以前は、1989年から1991年にかけてピッツバーグ大学医学部外科学・病理学教授を歴任。論文審査のある学術専門誌に200件以上の論文、ならびに40冊以上の本の執筆をてがける。20年以上にわたり研究および投資戦略に関して、(旧)山一証券、(株)ジャフコ、日本政策投資銀行などの顧問を務めると共にアヴィジェン、バイオアレー・ソリューションズ社などバイオテクノロジー企業数社の取締役を歴任する。札幌医科大学卒業。同校より医学博士号修得。



マイケル・コフィー
チーフ・ビジネス・オフィサー兼暫定CFO
(最高財務責任者)

2010年6月14日に現職就任。1991年から1998年にかけて、アテナ・ニューロサイエンス・インク(Athena Neurosciences, Inc.)において、マーケティング及び経営幹部のポジションを歴任後、社長兼COO(最高執行責任者)を務める。1998年から2001年にかけて、エラン・ファーマスーティカルス・ノース・アメリカ(Elan Pharmaceuticals, North America)において、社長兼COOを務める。2001年から2004年にかけて、アマリン・コーポレーションPLC(Amarin Corporation PLC)の米国内の医薬開発及びマーケティング関連の子会社である、アマリン・ファーマスーティカルス・インク(Amarin Pharmaceuticals, Inc.)において、社長兼COOを務める。その後、新興製薬企業に広範な医薬開発コンサルティングサービスを提供するコンサルティング企業、アレクタ・グループLLC(Alekta Group, LLC)の共同設立者となる。2005年2月から2009年5月にかけて、アヴィジェン・インク(Avigen, Inc.) (2009年12月にメディシノバが買収・合併)においてチーフ・ビジネス・オフィサーを務める。2009年5月から2010年2月にかけて、アダムス・ファーマスーティカルス・インク(Adamus Pharmaceuticals, Inc.)において販売・マーケティング担当上席副社長を務める。シエナ・カレッジ(Siena College)卒。アモス・タック・スクール・オブ・ビジネス(Amos Tuck School of Business)にて、上級経営学の学位を取得。



カーク・ジョンソン
副社長兼CSO
(最高科学責任者)

2010年2月1日に現職就任。2004年から2009年にかけて(メディシノバによるアヴィジェン買収成立時まで)、アヴィジェンにおいて研究開発担当副社長を務める。2001年から2004年にかけて、ジェネソフト・ファーマスーティカルス(Genesoft Pharmaceuticals)において、薬理学・前臨床研究の専務取締役及び上級執行役を務める。1991年から2001年にかけて、米国ワクチン最大手カイロン社(Chiron Corporation)のタンパク質及び低分子治療分野の研究開発部門に在席。最終的に、薬理学及び前臨床研究の長を務める。この間、神経痛・貧血・抗菌薬・糖尿病・肥満・急性炎症・心疾患などをはじめとして、薬理学・毒物学以外の分野でも多くの開発を手がける。ジョンソン氏は、これまでに約65の学術論文を発表し、また、米国において12件以上の発行済特許を有している。カリフォルニア大学デービス校より理学士取得。ヴァージニア医科大学より薬理学・毒物学の博士号取得。カリフォルニア大学バークレー校及びダートマス医科大学にて、博士課程修了後のフェローシップとして、インターロイキンIIの作用機序を他の研究者と共同研究。



岡島 正恒
東京事務所代表、副社長

大和証券 SMBC 株式会社社事業法人部上席次長を経て2006年9月より現職。大和証券 SMBC では、インベストメントバンカーとして、主にバイオベンチャー、メディア、通信、IT 業界を担当。各種ファイナンス、M&A、IPO 等において7年以上の経験を持つ。1996年から1999年にかけて、住友キャピタル証券株式会社市場営業部では、事業会社の資金運用ニーズに合わせ、仕組債をオーダーメイド組成して販売していた実績を持つ。また、1991年から1996年にかけては住友銀行(現三井住友銀行)にて、支店業務、システム開発部、証券企画部を歴任。東京理科大学理工学部経営工学科卒。社団法人日本証券アナリスト協会検定会員。

取締役



ジェフ・ヒマワン
取締役会長

エセックス・ウッドランズ・ヘルス・ベンチャーズ社
マネージング・ディレクター



ジョン・ブレンダーガスト
取締役

サマー・クラウド・ベイ社 社長



アーリーン・モリス
取締役

アフイマックス社 前社長兼CEO



繁田 寛昭
取締役

ザ・メディシンス・カンパニー
取締役



岩城 裕一
取締役
上記参照

貸借対照表

(百万円/単位未満切捨て)

科目	前期末 (2009年12月)	当期末 (2010年12月)	増減額
資産の部			
流動資産	3,823	4,754	+931
固定資産	3,862	1,188	△2,674
有形固定資産	12	5	
投資その他の資産	2,714	10	
資産合計	7,686	5,943	△1,743
負債の部			
流動負債	1,827	2,998	+1,171
固定負債	2,599	932	△1,667
負債合計	4,426	3,930	△496
純資産の部			
株主資本	3,265	2,017	△1,248
資本金	1	1	
資本剰余金	23,522	23,916	
開発段階での累積欠損	△20,156	△21,801	△1,645
自己株式	△100	△97	
評価・換算差額等	△5	△4	+1
純資産合計	3,260	2,013	△1,247
負債及び純資産合計	7,686	5,943	△1,743

損益計算書

(百万円/単位未満切捨て)

科目	前期 (2009年)	当期 (2010年)	増減額
営業収益	—	—	
営業費用	1,730	1,457	
営業利益	△1,730	△1,457	△273
営業外損益	92	36	+56
税金等調整前当期純利益	△1,659	△1,644	+15
税金費用	△0	△1	△1
当期純利益	△1,659	△1,645	+14

キャッシュ・フロー計算書

(百万円/単位未満切捨て)

科目	前期 (2009年)	当期 (2010年)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,386	△1,442
投資活動によるキャッシュ・フロー	△92	2,252
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,474	△75
現金及び現金同等物の増減	△4	734
現金及び現金同等物の期首残高	1,572	1,567
現金及び現金同等物の期末残高	1,567	2,302

株主資本等変動計算書(2010年1月~2010年12月)

(百万円/単位未満切捨て)

	資本金	資本剰余金	開発段階での 累積欠損	自己株式	株主資本合計	評価・換算 差額等	純資産合計
2009年12月31日現在残高	1	23,522	△20,156	△100	3,265	△5	3,260
連結会計期間の変動額							
従業員株式報酬費用	—	163	—	—	163	—	163
オプション行使	0	13	—	—	13	—	13
転換社債の転換による株式発行	0	147	—	—	147	—	147
融資契約に伴い発行したワラントの公正価値	—	70	—	—	70	—	70
新株発行							
従業員株式購入プラン	—	—	—	3	3	—	3
包括損失							
当期純損失	—	—	△1,645	—	△1,645	—	△1,645
その他の包括損失	—	—	—	—	—	1	1
包括損失合計							△1,644
2010年12月31日現在残高	1	23,916	△21,801	△97	2,017	△4	2,013

注)米国会計基準に準拠した財務諸表の科目を一部変更しております。三菱東京UFJ銀行の2010年12月30日現在の対顧客電信相場から算出した仲値1ドル=81.49円にて円換算しております。

CHECK POINT

広義の現金約23億円を有し、2011年12月31日までの営業活動資金を十分にカバーしています。

※広義の現金=「現金及び現金同等物」+「投資有価証券+ARSプット」-「ARSローン」(ただし、プットでカバーされていない長期投資有価証券を除く)

CHECK POINT

2010年7月1日にARSプットを行使し、UBSIに投資有価証券(ARS)を額面で売却を実施。併せてARSローンを償還し、差し引き約7.7億円を受領しました。また、転換社債265,409株分が転換し、約1.5億円分が使途制限付現預金より現金及び現金同等物に振替えました。

CHECK POINT

ARSローン償還約14.3億円、アヴィジェン買収に伴う第2回支払対価のエクローホールドバックの払出約0.9億円に対し、Oxford Financeからの融資実行により長期借入金が約11.7億円増加し、負債合計が約5.0億円減少しました。

CHECK POINT

払込剰余金にストック・オプションに係わる株式報酬費用約1.6億円、ストック・オプション及び転換社債の行使によりそれぞれ約1.8億円と約1.5億円、Oxford Financeに発行したワラント価値0.7億円を計上しましたが、開発段階で累積欠損金が約16.4億円増加したため、株主資本合計が約12.5億円減少しました。

CHECK POINT

MN-166(AV411)薬物依存症治療薬の臨床試験実施に伴う費用が増加しましたが、MN-221喘息急性発作及びCOPD治療薬の開発費用の減少、人件費の削減及び知的財産に関する法的費用の減少(未配分部分)により、研究開発費が約0.9億円減少しました。また、アヴィジェン社買収のトランザクション完了に伴う専門家報酬費用の減少、2010年度企業目標の不達で2010年に賞与が未発生となったことなどにより一般管理費が約1.8億円減少しました。これらにより営業損失が約2.7億円減少しました。

CHECK POINT

Oxford Financeからの借入金に対する利息の支払いなどにより支払利息が約1.2億円増加しました。

Stock Information

株式の状況

発行可能株式総数 **30,500,000**株(2011年3月31日現在)
発行済株式の総数 **15,290,839**株(2011年3月31日現在)
(自己株式43,735株を含む)

純資産 **20億13**百万円(2010年12月31日現在)
株主数 **6,804**名(2010年4月19日現在)

[大株主] (2010年4月19日現在)

株主名	所有株式数(株)	発行済株式数に対する 所有株式数の割合(%)
エセックス・ウッドランズ・ヘルス・ベンチャーズ・ファンド VI・エルピー	1,170,370	9.42
イワキ・ファミリー・リミテッド・パートナーシップ	592,851	4.77
BNPパリバ・ウェルス・マネジメント・香港	305,900	2.46
ジャフコG-(9) (A) ベンチャー・キャピタル・インベストメント・リミテッド・パートナーシップ	290,100	2.33
UBSフィナンシャル・サービス・インク	269,701	2.17



株主メモ

証券コード JASDAQスタンダード 4875

決算期 12月31日

売買単位 100株(JASDAQスタンダード)

株式事務取扱機関 大阪府大阪府中央区北浜4丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

事務取扱場所 東京都府中市日鋼町1番10号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

株主名簿管理人 American Stock Transfer & Trust Company
(アメリカン・ストック・トランスファー・アンド・トラスト・カンパニー)
6201 15th Ave. Brooklyn, NY 11219, USA
電話 +1(718)921-8217
E-mail ssilber@amstock.com



メディシノバ 東京事務所

〒105-0003 東京都港区西新橋1-11-5 新橋中央ビル5F
TEL:03-3519-5010 FAX:03-3593-2721